DEAR 会員・支援者の皆さま

5 月に開催された 2014 年度会員総会で承認された事業報告・計画等をまとめ、お送りいたします。
報告書・決算書の全文は DEAR のウェブサイトにも公開していますので、併せてお目通しください。

1. 2013 年度事業報告（中期方針に沿って）
2. 2013 年度活動計算書・2014 年度活動予算書
3. 2014 年度事業計画

# 1. 2013 年度事業報告（中期方針に沿って）

## 2013年度を振り返って

経済のグローバル化が進む中で、世界的な経済・金融危機、食料危機、気候変動といった地球的課題は深刻化し、貧富の格差の拡大や環境破壊などをもたらしています。

国内に目を向けると、原発事故で露呈された、都市が地方に大きく依存しているゆがんだ構造について、またそれをすすめてきた責任も問われることなく、一人ひとりの人権や生活よりも、経済発展や効率重視の政策がすすんでいます。

市民の意思が十分に反映されない政治や経済のあり方に大きな不安を覚えます。

このようなグローバル化の影響は、教育にも大きく影響しています。貧困や格差の増大がそのまま教育の機会の喪失につながるとともに、学校の現状や子ども達の実態に基づかない教育政策が進んでいます。政府が謳う「グローバル人材」については、その内容を十分に議論されないまま、せまい意味での人材育成に力が入れられています。

DEARは1982年に設立以来、教育の立場から公正な社会の実現のために活動してきました。

開発のあり方を、画一的なものではなく、多様な社会、文化、民族、地域に依拠した「様々な開発」ととらえ、「誰のための開発か」という視点から、その背景にある問題や構造を問い直し、よりよい社会のあり方を探る活動を会員と共に続けてきました。

設立 31 年目となる今年度も、社会の様々な問題を見据えながら、対話や学習を通して、公正で持続可能社会をどのようにつくるのか、考え、議論し、実践しました。

**Topic 1**
第 31 回全研は、富山で開催！
「北陸からの発信」をテーマに
約 **200** 名が参加

**Topic 2**
水教材募金は 100 万円を達成！
**138** 名の方から **1,024,000** 円のご寄付。
ありがとうございます！

**Topic 3**
**75** 件・**160** 回、講師を派遣しました。
延べ参加者数はおよそ **4,800** 人！

**Topic 4**
売上 **No.1** 教材は『ワークショップ版・世界がもし 100 人の村だったら』。
**またまた増刷**しました！

**Topic 5**
教材体験フェスタ 2014 には
全国各地から **278** 名が参加。
全ワークショップが**満員御礼**に！

## 中期重点方針（2013-17 年度）

1. 現在の開発のあり方やグローバル化がもたらす不公正を構造的に捉え広く発信する
2. 「世界は変えられる」という思いに基づき行動する人を増やす

### 重点事業 1. 「グローバル化と開発問題」研究会の実施

現在のグローバルな諸課題（援助と国際協力、雇用・労働、食料安全保障、都市・農村格差、生産と消費、貿易、多様性と排除、女性と子どもの人権　など）を開発教育的な視点で捉え、その視点を提示することを目的に研究会「グローバル化と開発問題」研究会を立ちあげました。

### 重点事業 2. 公正な社会づくりへ参加するためのアクションの支援

公正な社会づくりに向けたさまざまなアクションの可能性があることを示し、アクションの意識喚起につながる活動を実施するために、身近なアクションの事例や方法を収集し、『アクション・ハンドブック(仮称)』の作成をすすめた。具体的には、事例や情報収集を行いました。

### 重点事業 3. 国内外の開発問題を多様な人たちと話し合う場づくりの支援

身近な開発問題や賛否両論ある問題について対話し学ぶ場が広がるように、そのためのファシリテーター研修やツール作成を実施します。具体的には2014年度より事業を行う予定です。

### 重点事業 4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり

グローバル人材、教育改革などの教育政策の現状を開発教育の関連で理解するとともに、オルタナティブな教育のあり方を市民の立場から発信・提案することを目的に、今年度は、教育政策の現状について外部講師などを招き、情報収集を行うとともに、政策分析やネットワーク作りを行いました。

『もっと話そう！エネルギーと原発のこと～参加型で学び合うための 16 の方法』が ESD グッドプラクティスに選ばれました。

## 会員数

2014 年 3 月末現在の会員数は、次の通りです。（括弧内は昨年末比の数字）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 正　会　員 | 団　体 | ２２団体 | （－３団体） |
| | 個　人 | ４０８名 | （－２６名） |
| 賛助会員 | 団　体 | １７団体 | （＋２団体） |
| | 個　人 | ２４０名 | （－２５名） |
| | （内学生会員：３５名） | | |
| ＜延べ数＞ | 団体会員 | ３９団体 | （－１団体） |
| | 個人会員 | ６４８名 | （－５１名） |

## 講師派遣件数

７５件１６０回（参加者延数：約４，８００人）

## 出版物

- 会報「DEAR ニュース」（年 5 回）
- 研究誌「開発教育」Vol.60（12 月）
- 新教材『日本と世界の水事情～水から広がる学び・アクティビティ 20』（3 月）
- 改訂発行『ワークショップ版・世界がもし 100 人の村だったら　第 4 版』
- 増刷『開発教育実践ハンドブック～参加型で世界を感じる』
- 増刷『開発教育ってなあに～開発教育Ｑ＆Ａ』

事務局長の中村が南ア･ヨハネスブルグ会議に参加（11月）

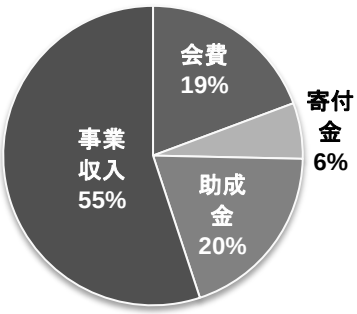
開発教育全国ネットワーク会議を開催（3月）

# 2. 2013 年度活動計算書・2014 年度活動予算書

## Ⅰ　経常収益

| 科目 | 2013 年度予算額 | 2013 年度決算額 | 2014 年度予算額 |
|---|---|---|---|
| **1. 受取会費** | **6,310,000** | **5,546,000** | **6,160,000** |
| 団体会員 | 840,000 | 790,000 | |
| 個人会員 | 5,200,000 | 4,552,000 | |
| 学生会員 | 270,000 | 204,000 | |
| **2. 受取寄付金** | **1,500,000** | **1,731,440** | **900,000** |
| 一般寄付金 | 550,000 | 446,222 | |
| 指定寄付金 | 950,000 | 1,042,218 | |
| 特別寄付金 | 0 | 243,000 | |
| **3. 受取助成金** | **5,240,000** | **5,623,600** | **4,750,000** |
| **4. 事業収益** | **14,387,000** | **15,809,809** | **20,988,000** |
| 自主事業収入 | 1,985,000 | 2,599,250 | |
| 共催・事業協力 | 280,000 | 449,440 | |
| 出版物売上 | 7,272,000 | 7,683,802 | |
| 講師派遣収入 | 4,850,000 | 5,077,317 | |
| 受託事業収入 | 0 | 0 | |
| **当期経常収益計** | **27,437,000** | **28,710,849** | **32,798,000** |

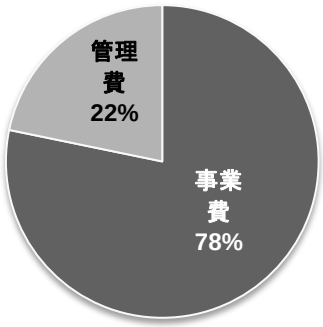
**2013年度経常収益**




## Ⅱ　経常費用

| 科目 | 2013 年度予算額 | 2013 年度決算額 | 2014 年度予算額 |
|---|---|---|---|
| **1. 事業費** | **22,689,523** | **22,088,549** | **25,359,171** |
| 人件費 | 9,562,814 | 9,657,732 | 10,535,543 |
| その他経費 | 13,126,709 | 12,430,817 | 14,823,628 |
| **2. 事務管理費** | **6,660,477** | **6,146,175** | **6,988,229** |
| 人件費 | 3,491,186 | 3,422,027 | 4,076,457 |
| その他経費 | 3,169,291 | 2,724,148 | 2,911,772 |
| **当期経常費用計** | **29,350,000** | **28,234,724** | **32,347,400** |

**2013年度経常費用**




| | | | |
|---|---|---|---|
| **Ⅲ　経常外収益** | 0 | 292,097 | 292,097 |
| **Ⅳ　経常外費用** | 0 | 764,670 | 764,670 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **当期正味財産増減額** | **△1,913,000** | **3,552** | **450,600** |
| 前期繰越正味財産額 | 13,594,699 | 13,599,669 | 13,603,221 |
| 次期繰越正味財産額 | 11,681,699 | 13,603,221 | 14,053,821 |

※皆さまのご支援・ご協力のおかげで、190 万円の赤字予算だったところが、なんとか黒字で決算できました。
　ありがとうございます！

※昨年度まで「収支計算書／収支予算書」の形式で作成していましたが、2014 年度より NPO 法人会計基準に基づき「活動計算書／活動予算書」に変更して作成しています。

# 3. 2014 年度事業計画

2005 年からはじまった「持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」が今年、10 年目を迎えます。この 10 年で、世界は、めざす方向にすすんだのでしょうか？この 10 年間をふりかえると、世界的には、経済・金融危機や貧富の格差の拡大、深刻な環境破壊、資源をめぐる紛争など、持続不可能な方向に進んでいるように思えます。

国内では、3 年前の原発事故からの教訓が活かされることなく、本質的な議論がなされぬままに、原発の再稼働や原発輸出の政策が決定されています。人々の暮らしに直接関係する「エネルギー」や「核」などの問題を論じずに、都合のよい持続性が重視されてしまう社会のあり方に危機感を感じます。

DEAR は ESD の 10 年を機に、「持続可能な開発」のあり方について、経済開発ではなく、社会開発、人間開発の文脈で捉え、地域の文化や生活を重視した開発のあり方、それをすすめる学びの実践をより重視してきました。異なる意見や立場の人も含む多様な人々と望ましい開発のあり方を考え、その実現をめざす開発教育が、より一層必要とされていると強く感じます。

今年度は、国内外の市民組織と連携し、ESD の教育実践を進化していくこと、さらには、そうした活動を民主的に進めていくしくみづくりに力を入れていきたいと思います。

## 重点事業 1. 「グローバル化と開発問題」研究会の実施

現在のグローバルな諸課題（援助と国際協力、雇用・労働、食料安全保障、都市・農村格差、生産と消費、貿易、多様性と排除、女性と子どもの人権　など）を開発教育的な視点で捉え、その視点を提示します。

昨年度立ち上げた、「グローバル化と開発問題」研究会が中心となり、外部講師などを招いて公開セミナーなどを開催し、情報共有・整理をします。

## 重点事業 2. 公正な社会づくりへ参加するためのアクションの支援

公正な社会づくりに向けたさまざまなアクションの可能性があることを示し、アクションの意識喚起につながる活動を実施します。今年度は、全研でも分科会を持つと同時に、身近なアクションの事例や方法を収集し、『アクション・ハンドブック(仮称)』の作成をすすめます。

## 重点事業 3. 国内外の開発問題を多様な人たちと話し合う場づくりの支援

身近な開発問題や賛否両論ある問題について対話し学ぶ場が広がるように、そのためのファシリテーター研修やツール作成を実施する。

具体的には昨年度作成した「評価ハンドブック」などを活用しながら、地域の担い手と共に、学びの場づくりを行う。

## 重点事業 4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり

グローバル人材、市民教育などの教育政策の現状を開発教育の関連で理解するとともに、オルタナティブな教育のあり方を市民の立場から発信・提案する。

今年度は、政府がすすめる「グローバル人材」や「18 歳選挙権」に対して、本質的な議論をすすめるために、セミナーを開催するほか、情報収集を行い、政策分析やネットワーク作りを行う。

## 組織基盤強化のために…

尚、このような重点方針に取り組むためには、持続的な組織体制づくりが必須であることから、今後も組織基盤強化に力を入れていきます。具体的には認定 NPO の取得をめざして、継続的な寄付を集めるために、サポーター制度を立ち上げる予定です。

DEAR の継続的な活動と組織強化のために、皆様の、ご協力、ご参加を引き続きよろしくお願いいたします。

## 事務局の職員体制

事務局長　　中村　絵乃（専従）
事務局次長　西　　あい（専従）
事業担当　　八木　亜紀子（専従）
経理担当　　大久保　美智彦（嘱託）
総務担当　　中田　洋子（嘱託）
事業担当　　宮崎　花衣（嘱託）５月まで
事業担当　　星　久美子（嘱託）

2014 年度も
がんばります！